

## 金沢文庫文書

かながわけんりつかかなざわぶんこ

作者: 神奈川県立金沢文庫



## 解題

## Keyword

- 金沢北条氏
- 称名寺
- 中世文書
- 金沢文庫
- 関靖
- 熊原政男
- 仏典
- 荘園
- 相田二郎
- 紙背文書
- 聖教

金沢(かねさわ)北条氏(鎌倉幕府執権・北条氏の一族)の菩提寺である称名寺に伝来した中世文書。『吾妻鏡』(#1)が文永3年(1266)7月で中断し、鎌倉後期の政治情勢を記述する史料は少ないため、鎌倉幕府滅亡に至るまでの幕府の政治動向を追究する上で重要な史料とされている。

## ■ 成立経緯

近代まで知られていた称名寺の中世文書は、江戸幕府編纂の『新編武蔵風土記稿』(#22)などに収録されている60余通であった。

昭和5年(1930)、神奈川県立金沢文庫の発足とともに、称名寺の塔頭・光明院に伝えられた古書長持5棹と書物箱などを文庫に移して、古書の整理を行った。古書は綴目も糊もはがれ、紙魚や鼠の害を多大に受けて、本の形を完全にとどめているものは少ない状態であったが、南北朝時代頃までに称名寺の住僧が書写を続け、室町時代以降のたびたびの金沢文庫本の流出の時も嚴重に隠されてきた大量の仏書であった。これらの古書の整理作業は、初代文庫長の関靖と司書の熊原政男によって進められた。整理する過程で、多くの書物の紙背(裏側)に古文書が存在することが発見された。書状としての用が終わって裁断され、仏書の裏側に散在していた古文書を照合し、完全な書状にまとめあげるといふ地道な作業を続けた結果、4,149通の古文書が復元された。これらの古文書は、ひとたびは書状としての役割を終え、裏側を称名寺で仏典の書写に用いた反古紙であり、神奈川県立金沢文庫の整理研究活動によって、初めて世に知られる

ようになった資料であるので、「金沢文庫(古)文書」と呼ばれている。平成2年(1990)年3月、この4,149通が一括して重要文化財に指定された。

## ■ 金沢文庫

金沢文庫は、建治元年(1275)頃、北条実時が武蔵国六浦庄(現・横浜市金沢区)の金沢の地に創設した文庫で、現存する武家文庫では最古のものである。実時、顕時、貞顕、貞将の金沢北条氏四代によって次々に拡充を重ね、京都からもたらされた和書、中国から取り寄せられた漢籍、称名寺の僧によって収集された密教の儀軌・伝授書など、多種多様で、しかも質の高い書籍が集められた。当初は個人的な武家文庫であったが、時代を経るにしたがって、個人から金沢北条氏一門の文庫として展開し、鎌倉を中心とする中世文化の育成に大きな役割を果たした。しかし、元弘3年(1333)鎌倉幕府の崩壊とともに北条氏一族が滅び、金沢文庫は称名寺が管理するようになった。称名寺も時代とともに衰微し、文庫の蔵書は時々々の権力者の所望などで江戸時代前半までにその大半が流失した。

明治以降、金沢文庫復興の機運が高まり、金沢の地で憲法を起草した伊藤博文らの尽力で再建が試みられたが、本格的なものにはならなかった。昭和に入り神奈川県が天皇即位記念事業として新たに文庫の建設を決め、大手出版社・博文館社主大橋新太郎の資金援助を得て、昭和5年(1930)神奈川県立金沢文庫を設立した。平成2年(1990)建物を新築、中世歴史博物館として活動している。

## ■ 内容

鎌倉時代中期から南北朝時代までの間に書かれた古文書で、量的に豊富で、質的にも非常にすぐれており、鎌倉を中心とする中世の政治・経済・文化さらには日常生活等を知るうえで欠くことのできない貴重な史料である。

文書の主な内容は、朝廷関係・幕府関係・宗教関係文書、公的及びそれに準ずるもの、武士・僧侶及びそれらに関係ある女性等が私的に取り交わしたものなどであるが、とりわけ金沢北条氏・称名寺住僧およびその関係者の私文書が大量に含まれているところに特徴がある。私的な書状とはいえ、金沢北条氏の鎌倉幕府における地位の重要性から、鎌倉時代末期の政治の動向や武家社会の動向を探るうえで有力な史料となるものが多い。また、称名寺は金沢北条氏の勢力拡大にともなって日本中に寺領(荘園)を展開したため、荘園支配のための実務書類も数多く含まれている。また、仏典そのものも中世の学問寺としての称名寺の活動や鎌倉の宗教事情を知るための重要な史料である。主体となる真言密教や戒律以外にも、南都(奈良)の旧仏教から念仏・禅・法華、神道にいたるまであらゆる教派にわたっている。

## ■ 刊本

影印本としては、コロタイプ縮印版の『金沢文庫古文書』が、金沢文庫古

典保存会より刊行されている。これは所務文書・書状合わせて706通(280枚)を複製したものである。

翻刻本としては、昭和12年(1937)から『金沢文庫古文書』の刊行が開始された。編集には文庫長の関靖が当り、東京帝国大学文学部史料編纂所(現・東京大学史料編纂所)の史料編纂官・相田二郎(あいだ・にろう)がこれに協力した。これは『大日本古文書』を参考に頭注や傍注をつけた精緻な史料集であったが、戦争のため、第2輯で刊行が中断された。史料的価値の高いものが優先的に収録されており、第1輯には称名寺を中心とした所務文書334通、第2輯には僧侶や金沢貞顕などの武家の書状792通が収められている。

昭和27年(1952)から39年に、体裁・編集方針を改めて、再び『金沢文庫古文書』として全19冊(本文全17巻、索引、附録)が金沢文庫から刊行された。第1輯～9輯、12輯及び追加篇(「索引」の巻に収録)には、重要文化財指定の金沢文庫文書4,149通の他に、古書の紙背に存するもの、近世までに称名寺から流出したものも含めて6,987通の中世文書が収録されている。別巻の「索引」は第1輯～12輯に収録された文書の主要語句から検索できるようにしたものである。この他、古書の奥書を集めた「識語篇」(第10～12輯)、近世文書を主に金石文や称名寺過去帳を集めた「江戸期篇」(第13～14輯)、江戸時代に金沢で大規模な新田開発を行った永島家から寄贈された「永島家文書」(第15～16輯)、幕末の神奈川奉行をつとめた依田盛克の子孫から寄贈された「依田家文書」(第17輯)が収録されており、多彩で貴重な文書群をなしている。また、「附録」として、初代文庫長・関靖が金沢文庫文書に頻出する用語を解説した「中世名語の研究」が収録されている。いずれも500部程度の限定出版で、公共機関に寄贈された。

その後、『神奈川県史 資料編 古代中世』をはじめとする自治体史や『鎌倉遺文』などの史料集にも収録され、金沢文庫文書の活用の範囲が広がった。

平成4年(1992)には、金沢文庫文書のうち、称名寺第2代長老・劔阿(けんあ)の所持本であった『宝寿抄』の紙背文書168通の写真図版、翻刻・解説からなる『金沢文庫資料図録：書状編1』が刊行された。

金沢文庫文書に関する目録としては、平成2年(1990)に『金沢文庫文書目録』が刊行されている。これは、金沢文庫文書の重要文化財指定のために作成された目録で、4,149通の文書の法量・紙質・紙背の聖教(しょうぎょう：僧侶によって書写・収集された仏教関係の文書や書物)の細目など、文書の書誌データが記載されている。金沢文庫文書の多くは紙背文書であるので、この目録で文書の裏の内容を確認することによって、宛先や時期を推定することができる。また、この目録所収の聖教紙背文書のうち、書名が判明し、聖教として復元可能なものについては、『金沢文庫文書聖教復元目録・金沢文庫文書関係聖教残闕』が別冊として作成されている。

なお、金沢文庫文書には、神奈川県立金沢文庫において現物を管理するために使用する「整理番号」(戦前の刊本の番号)と、戦後の刊本(『金沢文庫

古文書』全19冊)の通し番号と、2系列の番号が付与されている。現在、金沢文庫文書を引用する場合などには、戦後の刊本の通し番号を使用するのが一般的である。

## 称名寺

正元元年(1259)頃、当時六浦庄の領主であった北条実時によって創建され、後に金沢北条氏一族の菩提寺となった寺である。はじめは阿弥陀仏の救いを祈願する念仏堂のようなものであった。その後、北条実時は奈良西大寺の叡尊の感化を受け、文永4年(1267)、下野薬師寺の僧・妙性房審海を長老に招き、寺を真言律宗に改めた。称名寺は、実時のあと、顕時、貞顕、貞将ら金沢北条氏の篤い信仰によって発展した。また、教学研究が盛んな寺でもあり、審海のをうけて、2代長老・釵阿、3代・湛睿(たんえい)と学匠が相つぎ、多くの仏典、聖教が伝えられている。しかし、元弘3年(1333)に北条氏一族が減んだ後、最大の庇護者を失った称名寺は次第に衰えた。室町時代には、まだかなりの規模を維持していたが、江戸時代に入ると大きく衰退し、創建当時の堂塔は失われた。



## 史料本文を読む

### <影印本>

- 『金沢文庫古文書』 金沢文庫古典保存会 1944 [K21. 17/4]
- 『金沢文庫資料図録：書状編1』 神奈川県立金沢文庫 便利堂 1992  
[K70. 17/14/1-1] ※翻刻・解説あり

### <翻刻本>

- 『金沢文庫古文書』 全2冊 関靖編 1937-1943 [K27. 17/3/1~2]  
※第1輯は幽学社、第2輯は巖松堂より刊行。
- 『金沢文庫古文書』 全19冊 金沢文庫 1952-1964  
[K27. 17/1/1~18] [K27. 17/2/1]  
第1輯 武将書状篇 (索引あり)  
第2~3輯 僧侶書状篇 (索引あり)  
第4~6輯 闕名書状篇 (索引あり)  
第7輯 所務文書篇  
第8~9輯 仏事篇  
第10~12輯 識語篇 ※第12輯には「書状篇追加」を収録  
第13~14輯 江戸期篇  
第15~16輯 永島家文書  
第17輯 依田家文書  
索引(附 追加篇)  
附録 「中世名語の研究」(関靖著)

<目録>

- 『金沢文庫文書目録』神奈川県立金沢文庫 1990 [K02.17/30]
- 『金沢文庫文書聖教復元目録・金沢文庫文書関係聖教残闕』神奈川県立金沢文庫 1990 [K02.17/31]



史料についてさらに知る－参考文献－

- ◆「故関靖先生追悼号」（『金沢文庫研究』（39）神奈川県立金沢文庫 1958 [K05.17/1/2]）
- ◆\*熊原政男「金沢文庫古文書の整理と保存」（『日本博物館協会研究紀要』（1）日本博物館協会 1966）
- ◆竹内理三「金沢文庫古文書の価値」（『三浦古文化』（28）三浦古文化研究会 1980 [K20.3/3/28]）
- ◆「金沢文庫文書」（『神奈川県立金沢文庫総合案内 第2版』神奈川県立金沢文庫 1992 [K01.17/47A]）
- ◆福島金治「金沢文庫文書の伝来とその特質」（『金沢北条氏と称名寺』福島金治著 吉川弘文館 1997 [K28.1/447]）
- ◆「『金沢文庫古文書』と『金沢文庫文書目録』」（『くずし字を読んでみよう』神奈川県立金沢文庫 1999 [K01.17/21-1/99]）
- 『金沢北条氏の研究』永井晋著 八木書店 2006 [K24/419]

<金沢文庫について>

- 『金沢文庫の研究』関靖著 大日本雄弁会講談社 1951 [K01.17/1]  
※覆刻版:芸林舎 1976 [K01.17/1A]
- 『金沢文庫復興三十年誌』熊原政男編著 神奈川県立金沢文庫 1960 [K01.17/13]
- 『金沢文庫の教育史的研究』結城陸郎著 吉川弘文館 1962 [K02.17/10]
- 『金沢文庫資料の研究』納富常天著 法蔵館 1982 [K01.17/27]
- 『神奈川県立金沢文庫60年のあゆみ』神奈川県立金沢文庫 1990 [K01.17/34]
- 『金沢文庫の歴史』神奈川県立金沢文庫 1990 [K01.17/49]
- 『平成のあゆみ 1990-2005 : 神奈川県立金沢文庫開館75周年記念誌』神奈川県立金沢文庫 2005 [K01.17/34/75]